

地区ガバナー就任のご挨拶

— MANKIND IS OUR BUSINESS —

(人類が私たちの仕事)



ガバナー 寺田和之

2001年7月1日、名実ともに21世紀最初のロータリー年度の幕が開きました。今年度1年間の運営に熱意と責任を持って就任された各クラブの会長・幹事・委員の皆様、地区の幹事・委員の皆様もかなり緊張して新年度入りを迎えられ、早速、クラブ例会・諸行事、地区の委員会・諸行事の準備に取りかかれたことと存じます。ロータリー活動が真にその目的を達するためにはロータリアン個々の、そして、そのロータリアンが構成するクラブの自覚と行動があってはじめて成就されるものであります。この大切なクラブの運営を担われるクラブ会長・幹事の皆様にはこの一年間大変なお役目となりますが、どうか素晴らしい指導力を発揮されて輝かしい年度にして頂きますようお願い申し上げます。

I. RIの目標と方針

(1) 2001～2002年度の国際ロータリー (RI) のテーマは、本年2月の米国アナハイムで開催された今年度のガバナー (当時ガバナー・エレクト) を対象とした国際協議会で発表され、公式の日本語訳は「人類が私たちの仕事」と宣言されました。しかし、このテーマの直訳はわれわれ日本人にとっては理解に苦しむところです。

リチャード D. キング会長が、チャールズ・ディケンズの著書「クリスマス・キャロル」の一節から引用されたものとの説明によると次のようになります。『亡霊マーレイが現れて実業家スクルージに語った。「人類の問題が、私の仕事だったのだ。慈善・憐れみ・寛大・慈悲。この全てが私の仕事だったのだ」』

また、キング会長からは二つの誓約が要請され、その一つ目は『貧困・疾病・無知・天災で困っている人々に援助の手を差しのべる』。その二つ目は『才能や技術を発揮できる意欲のある事業・専門職務の指導者層に手を差し伸べ、ロータリアンに誘致する』でした。したがって、この二つの誓約を要約して、「人類が私たちの仕事」と意識したものであって、ディケンズが演劇家でありその終焉の目的はヒューマニズムであると言われていました。

結論としては、日本のロータリアンの中では、非公式ではありますが、この日本語訳を

人類の幸福に貢献することは、
私たちの責務である。

と読み替えている向きも多いようです。

(2) 2001～2002年度のキャンペーンは次の通り。

Rotary's Global Quest
One new member every month
ロータリーの全世界での探求
毎月1人の新会員

※RIテーマと同じ理由で、次のように読み替えてはどうかと思います。

世界規模でロータリー会員の増加を目指す。
全クラブ毎月1人の新会員

(3) リチャード D. キング会長の強調事項

① 会員増強

RI理事会はロータリー百周年に当たる2005年までに会員数を150万人にするという目標を設定し、会員組織強化の必要性を再確認しました。しかしこの野心的目標を達成するためには全ロータリー・クラブが「ロータリーの全世界での探求」に一丸となって参加しなければなりません。

② 教育研修の改善

ロータリーのことを知っている会員が増えれば増えるほど、より多くの会員がクラブ活動に参加するようになり、活動的ロータリー信奉者が増えてゆきます。そこでより良い教育訓練が確実に行われることが必要です。

③ 公共的イメージの高揚

地域社会においてロータリーがどう見られているかということは、そのクラブに会員を引きつけるか、長く居つかせるか、直接クラブの力に影響を及ぼします。そこでロータリーの公共的イメージを地域社会でも、また広く世界的にも強化しましょう。

④ クラブの発展改善

今ロータリーが直面している最大難問たる内部的挑戦事項の一つが、会員の魅力を失い会員を引留めることも出来ぬクラブ、適切な奉仕計画も持たず、ロータリー財団を支援してその一翼を担うこともせず、統率力を失ってしまったクラブ——そういうクラブの数々です。そこでクラブの発展、改善を助けるための行動をとりましょう。

(4) キング会長の強調事項等実行グループ（タスク・フォース）

キングRI会長は現行の20の実行グループを見直し、11のタスク・フォース組織に削減、各グループに委員長、副委員長、および世界34のゾーン（当地は第3ゾーン）にそれぞれを担当する“ゾーン・コーディネーター”各1名を任命し、各コーディネーターに、担当ゾーン内の地区やクラブの援助・指導に当らせる方式は継続する見込みです。

11グループの名称は次の通り。（すべて後にグループが付く）

- ① 会員増強（Membership Development）
- ② ロータリーの公共的イメージ高揚（Public Image Development）
- ③ 指導力養成と研修（Leadership Development and Training）
- ④ クラブの発展と改善（Club Development and Improvement）
- ⑤ 世界社会奉仕（World Community Service Programs）
- ⑥ 社会奉仕プログラム（Community Service Programs）

- ⑦ 友情の促進と親睦 (Friendship Development and Fellowships)
- ⑧ 家庭の意義 (Family Values)
- ⑨ 失明救済 (Avoidable Blindness)
- ⑩ 飢餓追放 (Hunger)
- ⑪ バルセロナ大会推進 (Barcelona Convention)

(5) 2001～2002年度会長賞プログラムなどについて

① 2001～02年度会長賞プログラム

2001～02年度会長賞は、人類が私たちの仕事であることを示すために、ロータリー・クラブ、ならびにクラブおよび地区リーダーシップを強化するようデザインされています。ロータリアンとして、ロータリーを発展、充実させることによって人類の幸福に貢献することは、私たちの責務です。2001～02年度にこうした目標を推進すれば、今現在そして将来にロータリーの綱領の遂行に貢献することになります。

今年度、会長賞プログラムは、会員増強、ロータリーに対する公共的イメージ、ロータリー教育と研修、クラブの発展と改善などの重要な問題を取り上げるよう、各ロータリー・クラブ、クラブ会長、ならびに地区ガバナーを動機づけるための3つの部分に拡大されています。これらの課題はすべて、人類を未来に導くためのロータリーの能力を確実なものにするために不可欠です。

② 「ロータリーの全世界での探求」キャンペーン表彰

目標：各クラブは2001～02年度、一つのクラブにつき月に有資格の新会員を1名入会させ、年度末までに一つのクラブにつき月に新会員を5名以上入会させます。各地区は、3つ以上の新クラブを結成します。

キャンペーン：50地区および100のクラブが、全世界での探求の受賞者として選ばれます。

賞：50の最優秀地区および100の最優秀クラブが、ロータリーの全世界での探求賞として準宝石でできた美しい地球儀を受賞します。地球儀の大きさは、世界、地区、クラブと、勝者のレベルによって異なります。更に、1年間に3名の新会員を入会させた各ロータリアンには特別認証ピンが授与されます。

II. RI 2660地区の目標と方針

(1) 地区のテーマ

ロータリーのテーマはRIのテーマが唯一のもので、クラブや地区がサブテーマを使用することは、RIのテーマを補足するものであっても禁止されているので、地区のテーマは設定出来ません。

(2) RIと地区との関係

ロータリーが全世界的規模で拡大発展するにつれ、社会的、文化的、経済的差異により或る程度の較差や遅延は、やむを得ざる特例として容認を求めざるを得ない。従って、次年度についても若干の相違は生ずることになりましょう。

しかし、組織の変革、すなわち地区リーダーシップ・プランの導入については、日本地区で僅か数地区が取り残されようとしているので、次年度前半で、RIの承認を得て2001年11月までには6人のガバナー補佐を選出し、2002年2～3月にはガバナー補佐制度の導入と中間指導者層の研修を開始したいと考えております。

また、その他の方針は、極力実行に移すが、数値的目標については、当地区の特殊性を勘案して、努力目標と最低限度目標に分けて提示します。

(3) 問題別の目標

① 会員増強（純増数）

大規模クラブ	（会員数 100名以上）	10～15名
中規模クラブ	（同 40名以上100名未満）	4～5名
小規模クラブ	（会員数 40名未満）	2～3名

② 会員維持（退会防止）

- 重点目標
- i ご逝去者・高齢重病者以外の退会者を極力慰留します。
 - ii 遠隔地転勤者には後任者など関係者の紹介を要請します。

③ クラブ新設（拡大） 2～3クラブ

- 重点目標
- i 特定区域内でロータリアン適格者が急増した所へ働きかけましょう。
 - ii 周年行事の一環として強力な親クラブ候補が動いてくれる所に依頼しましょう。

(4) 広報活動の活発化

- ① マスコミの評価が高いプロジェクトや奉仕活動を実施します。
- ② Eメールなどにより報道機関に情報を流しましょう。

(5) パソコン通信の活用

- ① 基本的な保存情報の整理蓄積及びペーパーレス化の推進を実行します。
- ② 地区内外の各クラブとの情報ネットを拡大し充実させましょう。

(6) 職業奉仕

- ① 本来の職業奉仕は「ロータリアン各自が、自ら従事している業務の道徳的水準を高めるなど、仕事を通じて社会につくすこと」です。
- ② 職業奉仕月間の委員会活動として会長または委員長による職業奉仕の姿の話や、適当な内外講師による会員の職業奉仕に参考となる卓話などが望ましいと思われれます。

(7) 社会奉仕・青少年奉仕

- ① 当地区のライラ、ニコニコキャンプとも、年々問題が先送りされているので、状況を見ながら抜本的対策を検討します。
- ② 輪番で担当するクラブに過大な負担がかかっているとの指摘もあり、ローテーションのあり方について、新方式の開発を速やかに実施します。

(8) 国際奉仕

- ① 青少年交換ファンドの負担額は前年度に引き続き会員1人当たり年間3千円とします。
- ② 世界社会奉仕はクラブ独自のプロジェクトや内外の別のクラブと共同のプロジェクトをおすすめします。
- ③ クラブが同額補助金などロータリー財団の補助金を活用することを推進します。
- ④ 2004年の関西国際大会の参考になるので、関係者は1人でも多く、2002年6月のバルセロナ大会に参加して下さい。

(9) ロータリー財団

ロータリー財団は、国際レベルの人道的、教育的および文化交流プログラムを通じて、世界理解と平和を達成しようとするものである。米国の法制・税制上の理由から、国際ロータリーとは別法人になっています。

ロータリー財団寄付の目標

年次プログラム寄付	会員1人当たり	145ドル
ベネファクター	各クラブ	1名増
大口寄付		1名

(10) 米山奨学会

米山記念奨学金寄付の目標 1人当たり 20,000円

(11) 地区財政対策

- ① 次会計年度は、地区会計の年間収支黒字化を推進します。
- ② ガバナー事務所関係費の大幅圧縮と各委員会経費使用の合理化に努めます。
- ③ 地区資金としての各クラブからの納付金は据置きとしますが、財務状況悪化の際は対策を講じます。
- ④ 委員会関係経費の相当な圧縮をお願いしているので、期の途中で収支状況を確認し、早期に対策をたてます。

(12) まとめ

前記の目標のうち特に重要と考えられるものを統括し、2001～2002年度RI2660地区の方針は、次の6項目とさせていただきます。

1. 会員の維持（退会防止）と増強と地区クラブ数の増加をはかりましょう。
2. 自らでもロータリーの奉仕の精神を喚起しましょう。
3. ロータリー・イメージを高揚し、地域社会で尊敬され、感謝される存在になりましょう。
4. 組織を強化し、クラブの発展をはかりましょう。
5. ロータリー財団活動の活性化と、基金の体質強化に協力しましょう。
6. 2004年に関西（大阪）地区で開催されるRI国際大会に対しては、第2660地区のロータリアンに重大な責務がかかることになるので、次年度より準備及び運営に尽力しましょう。

21世紀の最初の年である今年度は、日本をとり巻く諸情勢も色々激しく揺れ動くことと思われませんが、我々日本のロータリアン、世界のロータリアンにとりましても、ロータリー百周年を4年後に控え、大きな変動の流れが始まる年でもあります。従って、第2660地区の86クラブの会長、幹事、委員長さんはじめ、皆さん一丸となって、奉仕活動と友愛と改革に全力を尽くそうではありませんか。

寺田ガバナープロフィール

生年月日 1930（昭和5）年2月26日

現住所 宝塚市千種3-13-2

最終学歴

京都大学経済学部卒

職歴

1952年4月 京阪神急行電鉄株式会社（現阪急電鉄株式会社）入社

1959年4月 帝國産業株式会社 入社

1980年6月 帝國産業株式会社 取締役

1983年6月 帝國産業株式会社 取締役社長

1985年1月 南海毛糸紡績株式会社 取締役

1999年6月 株式会社テザック相談役

（1988年10月帝國産業株式会社を株式会社テザックに商号変更）

主な役職

1983年7月 (社)関西経済連合会 理事

1985年5月 (社)大阪工業会 常任理事

1993年4月 泉州経営者協会 会長

1993年4月 関西経営者協会 常任理事

1994年3月 貝塚商工会議所 副会頭

1994年5月 (社)大阪工業会 副会長

1995年5月 (社)関西経済同友会 幹事

1998年5月 日本鋼索工業会 会長

1999年5月 (社)大阪工業会 監事・顧問

ロータリー歴

1984年8月 大阪ロータリークラブ入会

1989-90年度 S A A

1994-95年度 理事・友好委員長

1996-97年度 会長

1997-98年度 職業分類委員長

1998-99年度 会員選考委員長

ポール・ハリス・フェロー

ベネファクター

米山功労者

職業分類

シニア・アクチブ（ワイヤーロープ製造）